

《担当者名》向谷地生良[ikuyoshi@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

障害福祉学特論、精神保健福祉を中心としたフィールドでの実践をフィードバックしながら、精神保健福祉領域における政策課題とリカバリー概念が精神医療に与えた影響、さらには認知行動療法やナラティブアプローチについての理解を深め、当事者研究やオープンダイアログにつながる基礎的な理解と考察を深める

【学修目標】

精神保健福祉における政策的課題について歴史的経緯を踏まえて理解し、実践経験を踏まえて考察する。
 リカバリー概念が精神医療に与えた影響を理解し、精神保健福祉の実践に活かすことができる。
 認知科学の進展が精神保健福祉の実践モデルに与えた影響を理解し、当事者研究やオープンダイアログにつながる基礎的な理解と考察を深める

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業の進め方についての説明と打ち合わせ	精神保健福祉領域における治療から地域ケアにおける最新の理論や実践の動向を概観し、講義の目的を確認する	向谷地
2 3 9	フィールドワークの経験や知見の報告と討議	精神科病院、デイケア、地域生活支援、市民活動のレベルで行われているSSTや当事者研究に参加し、その知見をもとにディスカッションを重ねる	向谷地
10 15	精神保健福祉関連領域の研究論文の講読	イギリスのリカバリーカレッジ、イタリアの精神医療改革、フィンランドのオープンダイアログなど世界的に注目されている精神保健福祉の動向に関連した論文の講読を通じて、その動向と我が国の現状についてディスカッションを通じて考察する	向谷地

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、準備・参加状況（30%）、課題レポート（40%）による評価

【教科書】

適宜紹介する

【学修の準備】

事前に関連する文献や資料を読み込み、ディスカッション等に反映できるような準備が望まれる。